

94 F 13

特許公報

特許出願公告

昭41-5716

公告 昭41.3.29

(全5頁)

陰洗浄ならびに避妊装置

特 願 昭 39-50823

出 願 日 昭 39.9.5

発 明 者 出願人に同じ

出 願 人 白井茂

東京都北区滝の川2の42

代 理 人 弁理士 相良省三

図面の簡単な説明

第1図は本発明装置の1例の一部切断側面図、第2図は第1図の装置の管筒の帽体部分の拡大断面図、第3図は第2図の帽体の背面図、第4図および第5図は本発明による装置の使用方法を示す概略図であつて、第4図は仰臥位での使用時における概略図であり、第5図は上側位での使用時における概略図である。第6図は噴出液を右まわりに旋回させることが好ましい理由を説明するための説明図である。

発明の詳細な説明

本発明は陰腔内に洗浄剤または殺精子剤を含有するエヤゾールすなわち液化ガスをラセン状にすなわち円周の接線方向の回転流としてひくつ(解剖学的に右後陰窓部が左のそれより広く深い場合が多いゆえ)好ましくは右回りに噴出させ、陰腔内における分泌物、精液等の内容物を有効かつ確実に洗浄および(または)精子を殺滅する装置に関する。本発明の装置は特に性交後詳しくは射精直後に適用するのに適している。以下の説明において文献(1)、(2)、(3)とは次の文献のことである。

(1)…日本臨床社…産児制限の研究、慶大教授

安藤重一著

(2)…医学書院…臨床婦人科産科、第6巻12号、臨時増刊659頁、横浜大教授 森山農

(3)…日本産児調節会出版部…産児調節法、中井博松著

従来避妊方法は種々考へられ実施されてきたが、性交前に使用されるもので塗剤、座薬、ゼリー剤、散剤および液剤等(文献1)P.356～P.369、(2)P.660～P.661、(3)P.79～P.84)が用いられてきたが、使用上の煩雑なこと、特別な設備を要すること、秘密保持の困難なこと、経済的負担の大きなこと、着衣器具を汚染することの多いこと、個人差があること、手技の困難なこと等によりその目的は確実に達せられなかつた(文献2)P.661、(3)P.84とP.97～99)。

また現代避妊の三大方法の1つと、われもつとも普及されている洗浄避妊法(文献1)P.364)が用いられるところの洗浄避妊法には、イルリガートル法、スパイト法、強圧噴水法等(文献1)P.364～P.368)が実施されてきたがたとえば1500ccから2000cc位の液量を用いねばならないことや(文献3)P.96)、陰窓部にまでおよばないことがあり、(文献1)P.662)不確実で、手技の熟練を要し煩雑であり(文献3)P.96～P.98)、陰内膜の保持や薬剤の身体におよぼす有害な作用(文献3)P.98)があり、かつまた情緒のサクセス(文献3)P.98)、着衣器具の汚染や特別な設備および装置等を必要とするため、洗浄の効果は、外國においても60～70%(文献2)P.662～P.663)であると報告され、日本においては家庭構造および家族構成の上からも洗浄による避妊効果は低率であることが報告されている。

上記のことく現在においては、従来の薬物および洗浄法による避妊は困難、不確実である(文献2)P.661、(3)P.84とP.97～P.99)。

本発明は上述のことと欠点を解消し、最少限の洗浄剤または避妊薬で、最大限に確実な洗浄または殺精子効果をえることのできる陰洗浄ならびに避妊装置を提供するにある。

本発明の他の目的は陰腔内に洗浄剤または避妊薬を含有するエヤゾールがラセン状にすなわち円周の接線方向の回転流として噴出せしめられ、多数の細孔を有する陰窓、後陰窓部、および子宮外口の精子が洗浄されかつ殺滅される陰洗浄ならびに殺精子避妊装置を呈示するにある。

以下本発明の装置を図面を参照しながら詳細に説明する。

本発明による装置は一般的には第1図のエヤゾール容器1と管筒2とがなり、エヤゾール容器1はこの種の技術分野において周知な形態および構造のものである。この中には洗浄剤または避妊薬を含有せるエヤゾール原液が封入されている。容器1はエヤゾールを噴流せしめるための噴出口3を有し、この噴出口3は管筒2の本体4に設けられた凹所5内に受け入れられるようになつてある。本体4は貫通孔6を有し、かつその先端に帽体7を備えている。帽体7は本体4に、好ましくは取外し自在に、たとえば接着されていて、かつ本体4の貫通孔6に連通する連通孔8を有する。この連通孔8は帽体7の放射方向に延びる細孔9と連通し、また帽体7には本体4の端面と接する外周面10に

細孔9から円周方向にかつて噴出流が右旋回を起すように円周の接線方向に弧状に伸びた噴出溝11が複数個形成されている。この噴出溝11は第1図および第2図では、作図の関係上、細孔9から、その端まで同一幅のようになつているが、実際は第3図に示すように全体を末広がり状にするか、または少くとも噴出溝出口の形状をあさがお形か火山の噴火口、またはスリ鉢のごとく先びらきとする。かくすることにより、噴出時のエヤゾール泡抹が広がり、先に噴出した泡抹を圧迫して、旋回させる作用がはるかに強力となる。

本体4と帽体7とからなる噴管は任意の材料で作ることができると特にアクリル系樹脂のような合成樹脂材料で作るのがよい。その他エポキシ、ペークライト、ガラス等安価に量産可能な材料で作られる。

本装置の使用に当つては、ことに腹内射精後第4図のごとく仰臥位または第5図のごとく上臘位において噴管2を腹腔12内に挿入して、噴管の帽体7が後壁穹窿部13に達したところで、エヤゾール容器1を操作して洗浄剤または避妊薬を含有せるエヤゾールを噴出口3から貫通孔6内に噴流させる。するとエヤゾールは貫通孔8を通り、帽体7の貫通孔8、細孔9を通つて帽体7の外周面にある噴出溝11から後壁穹窿部に向けて右まわりに噴出される。噴出溝11から噴出されたエヤゾールは後壁穹窿部において腹内酵物および精液とよく混和する。ひきつづき噴管を腹より抜去しながらエヤゾールをたとえば1~5秒、普通には2~3秒連続的に噴出せると、エヤゾールは帽体7の噴出溝11から右旋回しながら漸時腹腔を有效地に洗浄してかつ腹内酵物を腹外に流出気化させる。かくして螺旋状に右回りに噴出されたエヤゾールの泡抹は腹腔および後壁穹窿部の内酵物および精液と混和しながら腹口に向つて流出し、腹内に残留せる泡抹の薬理的成分によつて細菌、精子は完全確実に殺菌殺精子された後漸次気化し腹外の流出物もはとんど気化してしまう。たとえば4kg/cm²に加圧されたエヤゾールの微細な泡抹は腹腔内においてラセン状に旋回しながら噴出されるため、柔軟でかつ伸展性に富む腹腔とともに深部は膨大、拡張し、腹壁も伸展され、腹腔内全部の内酵物とともに精液が多量にチヨウする後壁穹窿部において、よく混和しながら、

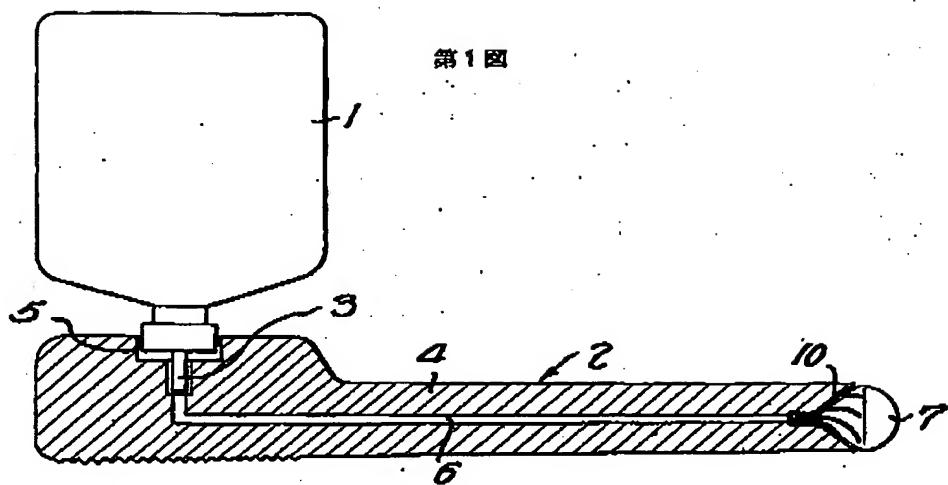
腹外に流出する。その際特に子宮外口部は泡抹状のエヤゾールにて完全に洗浄せられ、子宮外口部の腹内酵物および精液もまったく洗浄される。かつまた腹腔に残留せるエヤゾールの泡抹はエヤゾールの調製技術により1ないし10数時間は泡抹の状態を保持することができるため、腹腔内は殺精子剤で充満せる状態となり持久的殺精子能力を發揮する。またエヤゾールの水素イオン濃度をたとえば3.8~4.2位にしておくと、この酸性ということによつても精子は運動を停止し、あるいは死滅し避妊の効果を助成する。

本発明によれば、エヤゾールは原液としてたとえば1~2ccの少量を用いることにより、約20~40ccの容量の泡抹となるため、使用時に腹外に流出するがその泡抹は直ちに気化し湿润の感覚をはとんど与えない。したがつて着衣、寝具等も濡潤、汚染することなく、腹内射精直後のたとえば仰臥位または側臥位のまま簡単に本装置を使用できる。たとえば片手で本噴管挿入と噴出2~3秒と抜去数秒の手数にて、婦人自身で、また移動、姿勢の変更、作業音の外部への影響なしに、非常に簡単に、しかも確実に目的を達することができる。また噴出せる泡抹は腹腔内にてラセン状に旋回するため、数秒にて腹内酵物、精液とよく混和し、きわめて少量の原液、たとえば1ないし2cc(泡抹になつては20~40cc)にて完全にその目的を達することができる。さらに本発明においてはエヤゾールおよび量産される本噴管の価格が安く、しかも従来の洗浄避妊薬等より簡便かつ無害に、かつ事後の情緒をそこなうことなく、確実にその目的を達することができる。

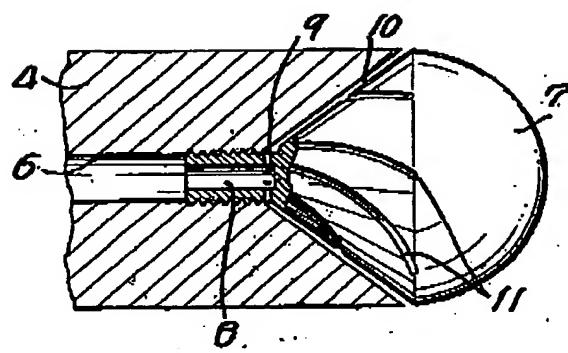
特許請求の範囲

- エヤゾール容器と、この容器と連なる噴管とよりなり、前記噴管は貫通孔を有する本体と、この本体の先端部に取付けられた帽体とを包含し、前記帽体は、その外周面に前記貫通孔と連通する円周方向にかつ円周の接線方向に弧状に伸びた噴出溝を有し、かつ噴出溝出口の形状を先びらきとし、洗浄剤または避妊薬を含有せるエヤゾールを円周の接線方向の回転流として噴出せしめるようにしたことを特徴とする腹腔洗浄ならびに避妊装置。

第1図



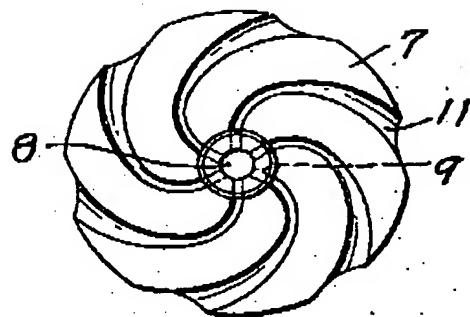
第2図



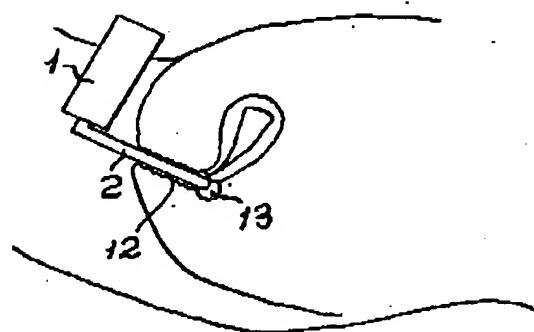
(4)

特公昭41-5716

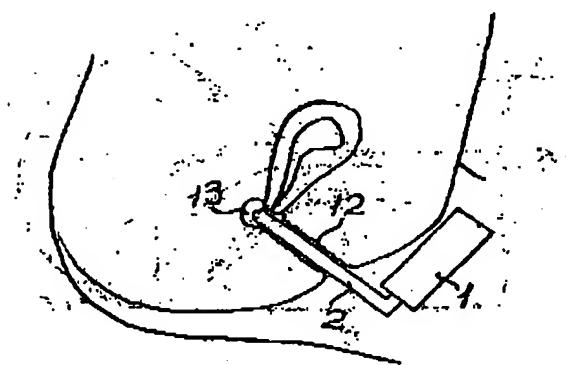
第3図



第4図



第5図



BEST AVAILABLE COPY

(5)

特公昭 41-5716

第6圖

